

# 平成 24 年度 陵墓関係調査報告

## 陵 墓 調 査 室

### 調査の概要

書陵部陵墓課陵墓調査室においては、「周知の遺跡」となっている陵墓、または文献等に記載があることにより、遺跡の可能性がある陵墓において、保全・整備のための土木工事などを実施するに際し、その施工区域・箇所における遺構・遺物の有無を確認し、工法の決定に資するため、所定の手続きをふまえ、事前調査・立会調査を毎年実施している。

平成 24 年度においても、所轄陵墓監区事務所や京都事務所などの関係機関、さらには地元の教育委員会とも協力し、以下の区域・箇所において調査をおこなった。その概要を以下に記すこととした。

〔事前調査〕 1 件

本年度の事前調査は、以下の 1 件である。

#### 1 東百舌鳥陵墓参考地（大阪府堺市北区百舌鳥西之町）整備工事に伴う調査

古市監区、10～12・2月実施、担当：徳田誠志・加藤一郎・横田真吾・土屋隆史

東百舌鳥陵墓参考地は土師ニサンザイ古墳の墳丘部であり、墳丘部を管理する宮内庁と濠部分など地元の文化財行政を担当する堺市と、同時期に調査を実施したものである。調査は 10～12 月におこなった。その後、堺市の調査区において、柱穴列が確認された。そのため、当庁の境界内における柱穴列の延長部分の存否を確認することを目的に、追加調査をおこなった。両調査の報告文は後掲するとおりである。

〔立会調査〕 17 件

#### 2 寛仁親王墓（東京都文京区大塚五丁目 豊島岡墓地内）営建工事に伴う調査

多摩監区、6・1月実施、担当：徳田誠志

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地にはあたらないが、玄室の埋設や基壇基礎工事箇所の掘削時に念のため立ち会ったものである。その土層は、表土の下に整地に伴う盛土層があり、地表下 1 m ほどで黄色ロームの地山が認められた。このことは、地山の検出深度の浅深こそあれ、平成 8 年度（本誌第 50 号で報告）、同 23 年度の B 地区の調査所見（本誌第 64 号で報告）と同様であった。営建工事箇所において遺構遺物は検出されなかった。

#### 3 桃山陵墓地（京都市伏見区桃山町古城山）外構柵その他整備工事に伴う調査

桃山監区、9～11月実施、担当：森下利光・妹尾吉紹・上原孝浩

本調査により伏見城に伴うと考えられる瓦片が出土している。報告文は後掲する。

#### 4 光孝天皇後田邑陵（京都市右京区宇多野馬場町）及び宇多天皇大内山陵（京都市右京区鳴滝字宇多野谷）鳥居改築工事に伴う調査

桃山監区、2・3月実施、担当：藤井 熨・平尾伸也

鳥居改築工事に伴い、それぞれの陵の掘削（深さはともに約 1.4 m）と埋戻し時に立ち会った。宇多天皇陵では、表土の下に既設鳥居設置の際の黄褐色の埋戻し土が確認された。また、光孝天皇陵においては、表土、黄褐色粘質土、黒褐色粘質土の 3 層が確認されたが、黄褐色粘質土は既設鳥居設置の際の埋戻し土、黒褐色粘質土は拝所整備時の盛土と考えられた。両陵ともに、遺構遺物は認められなかった。

#### 5 清和天皇水尾山陵（京都市右京区嵯峨水尾清和）参道手摺取設工事に伴う調査

桃山監区、2・3月実施、担当：鎌谷幸一

本陵の参道は 500 m 以上にも及んでいる。その入口部付近（A）、入口から 80 m 付近（B）、さらには

陵前に近い部分（C）の3箇所にわたり、手摺りを設けることになり、その掘削・埋戻し時に立ち会った。A・B両区域では最深で約30cm掘削した。表土ほか1層（Aでは砂質土、Bでは粘質土）が確認されたが、いずれも参道を整備した際の盛土と考えられた。C区域は参道石張部分のコア抜きであった。いずれの区域においても、遺構遺物は確認されなかった。

#### 6 後宇多天皇蓮華峯寺陵（京都市右京区北嵯峨朝原山町）災害復旧工事に伴う調査

桃山監区、2・3月実施、担当：今井隆太朗・角野陽香

平成24年7月中旬の梅雨前線は各地に集中豪雨をもたらし、京都市においても同月15日に大雨となり、住宅の浸水や土砂崩れ等の被害が出たところである。陵墓においても各地で被害が認められ、本陵においても、陵墓地の西端付近で地滑りによる被害を被った。地滑りのあった箇所は、「本-3号墳」および「本-4号墳」の中間に当たる位置（本誌第55号参照）であったが、幸いなことに両古墳への影響は認められなかった。その復旧のため、地滑り表層を削り取ったうえで谷筋に添って排水路を設け、全面を植生シートで覆い、傾斜面に直交して杭を打ち込み、丸太柵を設けた。そのための掘削（最深は集水枠設置箇所における約1m、その他は0.3m未満）等に立ち会った。各掘削箇所とともに、地山と考えられる明褐色粘質土が確認されたが、遺構遺物は認められなかった。

#### 7 天津日高彦火火出見尊高屋山上陵（鹿児島県霧島市溝辺町麓字菅ノ口）災害復旧工事に伴う調査

桃山監区、2・3月実施、担当：岩元真一

平成24年7月13日の豪雨により、本陵の北西部において地滑り等が発生した。その法面と巡回路の復旧のため、法面擁壁工、巡回路階段工、外構柵基礎工箇所、手摺り基礎工に伴う掘削・埋戻しに立ち会った。掘削深度は最深で約4.5mであった。土層は各掘削箇所とともに、上から表土、自然堆積土、地山となっており、遺構遺物は確認されなかった。

#### 8 月輪陵墓監区事務所（京都市東山区泉涌寺山内町）浄化槽改修工事に伴う調査

月輪監区、1～3月実施、担当：濱本厚志・大津昭久

現在の月輪陵墓監区事務所は、安楽光院跡善能寺隣に位置している。その北側に接する駐車場内に浄化槽を設置することになり、同箇所および中庭における配水管設置とあわせて、その掘削・埋戻しに立ち会った。駐車場浄化槽設置箇所の土層は、上から茶色粘土層（I）、暗灰色粘土層（II）、黄褐色粘土層（III）、茶褐色粘土層（IV）、茶色粘土層（V）、青灰色粘土層（VI）であった。II～IV層およびVI層からは瓦片や陶磁器片が出土しており、III層からは五輪塔の火輪部が出土している。いずれも遺構に伴うものではなく、掘削範囲内の土層は幕末期以降の盛土である可能性が高い。また、駐車場配水管設置箇所の土層は、基本的に黄褐色粘質土層のみであった。ここからは遺物が出土していないので断定は難しいが、周辺の状況から判断して後世の盛土と思われる。一方、中庭配水管設置箇所の土層は、上から暗灰色粘質土層、茶褐色粘質土層、黄褐色砂質土層、黄褐色粘土層であり、いずれの層にもコンクリートや金属の破片などが混じっていることから、後世の盛土と考えられた。最下層から瓦片と五輪塔の火輪部が1点ずつ出土しているが、遺構に伴うものではないと判断された。本調査による出土品は、五輪塔火輪部2点、瓦片18点、陶磁器片8点である。

#### 9 晃親王墓（京都市東山区泉涌寺山内町）ほか掃除口鉄扉修繕その他工事に伴う調査

月輪監区、3月実施、担当：濱本厚志・堀井 清

標記件名には晃親王墓のほかに、後冷泉天皇火葬塚（京都市北区紫野下御輿町）と香久宮墓（京都市左京区田中門前町）が含まれていたが、後二者には掘削は伴わなかった。晃親王墓においては、掃除口鉄扉の柱石据え直しに伴う掘削（長さ約2m×幅0.8m×深さ約0.4m）等に立ち会った。確認された土層は、柱石設置時の盛土のみであり、遺構遺物は確認されなかった。

#### 10 一條天皇火葬塚以下二火葬塚（京都市北区衣笠鏡石町）門柱改修その他工事に伴う調査

月輪監区、3月実施、担当：森岡正則・松村一成

一條天皇火葬塚は三條天皇火葬塚と同兆域となっている。その西側にある門柱の据直しをおこなうこと

となり、掘削（長さ約 0.8 m × 幅 0.8 m × 深さ約 0.7 m × 2箇所）・埋め戻し時に立ち会った。その土層は、既設門柱設置時の際の盛土などと考えられた。遺構遺物は認められなかった。

#### 11 後花園天皇火葬塚（京都市上京区扇町）参道修繕工事に伴う調査

月輪監区、3月実施、担当：森岡正則・井口佳久

本火葬塚の参道修繕工事をおこなうこととなり、入口に位置する石柱2箇所の据直しが必要となったため、その掘削（長さ約 0.5～0.7 m × 幅 0.5～0.7 m × 深さ約 0.4 m × 2箇所）等に立ち会った。確認された土層はしまりのない黒褐色土のみであり、後世の盛土と考えられた。遺構遺物は確認されなかった。

#### 12 鳥羽処理区大原系統大原公共下水道工事に伴う調査

月輪監区、5月実施、担当：藤原雅人

後鳥羽天皇大原陵（京都市左京区大原勝林院町）にある大原部事務所用下水施設設置のため、大原陵入口付近を掘削（長さ約 2.6 m × 幅約 1 m × 深さ約 0.8 m）することとなった。工事の主体は京都市であり、夜間の工事でもあったため、直接監区職員が立ち会うこととはなかった。施工業者に依頼し提供を受けた写真に基づく判断ではあるが、掘削箇所の土層は表土の下は地山と考えられた。遺構遺物は認められなかった。

#### 13 泉山陵墓地（京都市東山区今熊野泉山町）電話柱取替工事に伴う調査

月輪監区、6月実施、担当：石塚俊光・大津昭久

工事の主体はNTT西日本であるが、陵墓地内の掘削であることから念のため立ち会ったものである。電柱設置箇所（直径約 0.3 m × 深さ約 2.7 m × 4箇所）は、いずれも表土下約 1 mまで基礎コンクリートが打設されており、その下は地山のようであった。また、支柱設置箇所（直径約 0.3 m × 深さ約 0.6 m × 1箇所）も、層序は表土下は地山のようであった。遺構遺物は確認されなかった。

#### 14 垂仁天皇皇子五十瓊敷入彦命宇度墓（大阪府泉南郡岬町淡輪）外堤護岸その他整備工事に伴う立会調査

古市監区、10～11月実施、担当：清喜裕二・宮田一弘・佐々木靖秋・池西良和・須藤周太  
報告文は後掲する。

#### 15 百舌鳥部事務所（大阪府堺市堺区大仙町）建替工事に伴う調査

古市監区、11・12・3月実施、担当：徳田誠志・加藤一郎・近藤時男・安岡徹悦

本工事に伴う事前調査については、本誌前号で報告しているところであるが、施工に伴う掘削の際にも慎重を期して立ち会ったものである。その際、墳丘部で採集した埴輪と併せ、報文は後掲する。

#### 16 応神天皇恵我藻伏崗陵飛地に号（大阪府羽曳野市白鳥三丁目）土留板柵設置その他整備工事に伴う立会調査

古市監区、1～3月実施、担当：清喜裕二・宮田一弘・玉野裕弥

昨年度におこなった事前調査の結果（本誌前号で報告）をふまえ、当初予定された石積擁壁を土留板柵に変更し、施工したものである。報告文は後掲する。

#### 17 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵飛地と号（大阪府堺市堺区東永山園）進入防止柵設置工事に伴う立会調査

古市監区、2月実施、担当：近藤時男・須藤周太

飛地と号は長山古墳とも呼ばれる前方後円墳である。東側くびれ部にある張出部（渡土堤）と外堤が接する部分に侵入防止柵を設置することとなり、その基礎部5箇所の掘削（最深で約 0.4 m）等に立ち会った。既設コンクリート角柵の基礎が確認され、そのため地層の大部分は攪乱されていた。遺構遺物は認められなかった。

#### 18 仲哀天皇恵我長野西陵（大阪府藤井寺市藤井寺四丁目）余水吐漏水防止工事に伴う立会調査

古市監区、3月実施、担当：佐々木靖秋・安岡徹悦

本陵の後円部北西側外堤裾部にある余水吐漏水防止工事に伴い、その掘削・埋戻し時に立ち会った。余水吐下部のコンクリート壁の下には、3層が確認された。上層はコンクリート層、中層は盛土（明茶褐色粘質土層）、下層は壕内堆積土（青灰色粘質土層）である。遺構遺物は確認されなかった。

[現況調査] 1 件

**19 繼体天皇皇后手白香皇女衾田陵（奈良県天理市中山町）原状復旧に伴う現況調査**

畠傍監区、8月実施、担当：清喜裕二・寺本公通・藤田 裕

本陵において盗掘が認められたため、その原状復旧に伴う現況調査をおこなった。報告文は後掲する。

[墳丘外形調査] 1 件

**20 崇神天皇皇子大入杵命墓飛地い号（石川県鹿島郡中能登町）**

月輪監区、5月実施、担当：加藤一郎・土屋隆史・篠崎秀雄・堀井 清・森岡正則・安江竜太

昨年度実施した本地（小田中親王塚）に引き続き、本年度は飛地い号（亀塚）においておこなった。墳丘部を中心とした現況測量（縮尺1/100、25cm等高線）を実施したものである。その報告は本地の成果とあわせ、来年度以降におこなう予定である。

平成24年度には上記調査以外に、以下のような調査も実施した。

[所蔵出土品関係資料調査] 2 件

書陵部で保管している出土品に關係する調査を、所蔵者の協力を得て以下の2機関においておこなった。

**21 白久志山御祖神社（鹿島郡中能登町小田中）**

1月実施、担当：清喜裕二・加藤一郎

本神社が所蔵している大入杵命墓出土の三角縁神獸鏡の調査をおこなった。その報告は、大入杵命墓や同飛地い号（前述20参照）の墳丘調査、さらには後述23の文献調査の成果と併せ、来年度以降におこないたい。

**22 赤穂市立有年考古館（兵庫県赤穂市有年櫛原）**

3月実施、担当：横田真吾

本考古館所蔵の伝東百舌鳥陵墓参考地採集品（埴輪）の調査をおこなった。その詳細については、東百舌鳥陵墓参考地整備工事に伴う調査の報告と併せて後掲する。

[関係文献調査] 1 件

**23 石川県立図書館（石川県金沢市本多町）**

1月実施、担当：加藤一郎

本図書館の所蔵する大入杵命墓関係文献である「能登国鹿嶋郡小田中村御墓ノ図」、「能登小田中親王塚分間図」ほかの調査をおこなった。その詳細は来年度以降に報告する予定である。

[聴取り調査] 1 件

**24 奈良県高市郡明日香村在住 元畠傍陵墓監区事務所長**

2月実施、担当：福尾正彦・中川幸信・村島三彦

奈良県を中心とした終戦直後の世情混乱期における陵墓管理などについて、旧職員から聴取り調査をおこなった。

(福尾正彦)